

われわれ脊椎脊髄外科医は、患者の痛みやその表現の仕方、また筋力低下を伴った麻痺による歩行障害や上肢の運動障害の原因がどこにあるのかをまず考える。症状がいつから発症し、そしてどのように進行してきたのかを問診し、そして神経所見を取り、次に単純X線を撮影して脊柱変形、椎間板変性、すべりなどの不安定性はないかどうかを確認する。次にMRIやCTを撮像して器質的疾患の存在を客観的に証明して病因診断を確定する。どう考えても奇異な神経学的所見や、神経学的所見と合致する画像所見が得られない場合は、悩みに悩むことがある。麻痺や痛みが長引いたり悪化すると患者はうつ傾向になり、われわれ脊椎外科医も同じように悩み、苦しむ。どう考えても神経学的に説明し得ない麻痺や、たとえば下肢は完全麻痺で車いす生活なのに下肢の筋肉萎縮をまったく認めなかったり、また麻痺が重度になって学校に行けなかったり、仕事にも戻れなかったりしても本人はまったく焦ることも、悲しむこともなく車いす生活を淡々と継続したりする……。おかしい、これは心因的疾患ではないかと短絡的に考えがちである。

以前にはヒステリーと呼ばれていた病態は、現在「変換症」と呼称されており、これは心の病が身体に投影されて症状が出る疾患で、いわゆる偽装により何らかの利益を得る詐病とは違うものである。この特徴は、一般的な疾患に当てはまるような、神経、筋解剖学的見地から説明できないような奇異な身体症状を呈することである。解剖学的に説明のつかない麻痺を生じたり、肢位をとったりする（解離性障害、転換性障害、身体表現性障害、心気症、Munchausen症候群、ヒステリーなど）。DMS-5には、奇異だけで診断するべきではなく、生理検査、MRIなどの画像検査を行い、器質的な疾患が隠れていないか徹底した客観的検査をして確認すべきとされる。

また、患者の特徴として若い女性に多く、家族歴に精神疾患患者がいたり、教育レベルが低かったり、幼児期に虐待を受けていたりするといわれている。また、患者に重篤感がないのも特徴である。今回の心因性疾患についてのテーマは、われわれ神経を扱う脊椎脊髄外科医にとってはとても重要で、また常に頭に置きながらアプローチしなければならない疾患である。

長い歴史をもつ心因性疾患の疾患概念、歴史、そして多くの症例を提示しながら、その治療概念を各分野のエキスパートが解説してくださった。難治性疼痛に潜む心因性疾患の位置づけが少しクリアになった感じである。

園生先生の素晴らしい企画に感謝いたします。

(松山幸弘)

脊椎脊髄ジャーナル

編集顧問

萬年 徹 高橋 昭 金田清志
小山素麿 小柳知彦 田代邦雄
国分正一 服部孝道

編集委員

徳橋泰明（編集委員長）
金 彪（副編集委員長）
青木茂樹 亀山 隆 園生雅弘
高橋敏行 高安正和 谷 論
永島英樹 中村雅也 根尾昌志
飛驒一利 松山幸弘 山崎正志

Vol. 33 No. 3
(2020年3月25日発行)

毎月1回25日発行

1部定価（本体2,500円＋税）

（配送料別）

年ぎめ予約購読料33,300円＋税

送料弊社負担

発行／株式会社 三輪書店
代表者 青山 智

〒113-0033

東京都文京区本郷6-17-9

本郷網ビル

TEL 03-3816-7796

FAX 03-3816-7756

URL <http://www.miwapubl.com/>

（担当：山岸）

印刷所／三報社印刷株式会社

TEL 03-3637-0005

広告申込所／

（株）文栄社

TEL 03-3814-8541

（株）ハイブリッジエージェンシー

TEL 03-3814-0089

本誌の内容の無断複写・複製・転載は著作権・出版権の侵害となることがありますのでご注意ください。

Published by MIWA-SHOTEN Ltd.
6-17-9 Hongo, Bunkyo-ku, TOKYO © 2020,
Printed in Japan

JOCOPY 〈出版者著作権管理機構 委託出版物〉
本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前
に、出版者著作権管理機構（電話 03-5244-5088,
FAX 03-5244-5089, e-mail: info@jcopy.or.jp）の
許諾を得てください。